

## 2011年度 所員業績リスト

## ◆宇野 邦一

「変貌するジュネ」(三つの対話), 『舞台芸術』角川学芸出版, vol. 16, Spring 2012, p. 30-58, p. 78-93.

「顔の時間」, 『思想』岩波書店, 2011. 4 No. 1044, p. 39-52.

『ドゥルーズ 群れと結晶』河出書房新社, 2012. 2.

## ◆松田 正隆

## &lt;公演活動&gt;

2011年10月 『HIROSHIMA-HAPCHEON: 二つの都市をめぐる展覧会』

(日本・鳥取公演) (鳥の劇場・議場劇場(旧鹿野町議場))

主催: 鳥の劇場運営委員会 共催: 鳥取県、鳥取市、特定非営利活動法人鳥の劇場

「鳥の芸術祭」参加作品

『HIROSHIMA-HAPCHEON: 二つの都市をめぐる展覧会』

(韓国・ソウル公演) (Hanguk Performing Arts Center - Studio High)

主催: Seoul Performing Arts Festival [SPAF] 共催: マレビトの会

SPAF (ソウル国際公演芸術祭) 参加作品

5月 試演会: マレビト・ライブ vol. 1 (京都市・生祥児童公園)

6月 試演会: マレビト・ライブ vol. 2 (京都市・アパートの一室/緑下稲光の家・ミック/マリーの居酒屋・京都造形芸術大学 青窓館5階/ビルの屋上)

7月 試演会: マレビト・ライブ vol. 3 試演会 (京都市・元・立誠小学校、および、その周辺・阪急電車「河原町駅」・京阪電車「祇園四条」)

8月 試演会: マレビト・ライブ vol. 1~3 総集編 (京都市・京都芸術センター講堂)

主催: マレビトの会 共催: 京都芸術センター

助成: 公益財団法人セゾン文化財団、財団法人アサヒビール芸術文化財団

12月 試演会: マレビト・ライブ番外編 「N市民 緑下家の物語」

(京都市・烏丸三条スタバ前・出町柳三角州/高野川と加茂川の合流地点) 助成: 公益財団法人セゾン文化財団

12月 試演会: マレビト・ライブ/サウンドビュー「@アッチ&コッチ~N市からの呼び声~」

(京都市・アトリエ劇研)

主催: マレビトの会 助成: 公益財団法人セゾン文化財団・アトリエ劇研提携公演

2012年1月 試演会: マレビト・ライブ「N市民 稲光は東京スカイツリーに兄のファルスを見た」(東京・東

京橋・亀戸・曳舟・東向島珈琲店・京成橋・稲光の仮の宿・愛の巣・キューピッドガールズの稽

古場・マンモス公園) 主催: マレビトの会 助成: 公益財団法人セゾン文化財団

## &lt;その他の活動&gt;

2011年 6月 シンポジウム: マレビト・スタディーズ vol. 1 テーマ「何故、「女優論」なのか」

松田正隆 スピーカー: 池内靖子 (演劇・パフォーマンス・ジェンダー研究/立命館大学教授)

永井愛 (劇作家・演出家/二兎社主宰)

(京都市・京都芸術センター ミーティングルーム2)

8月 シンポジウム: マレビト・スタディーズ vol. 2 テーマ「ヒロシマ/フクシマ」

松田正隆 スピーカー: 東琢磨 (音楽・文化批評・ヒロシマ平和映画祭実行委員)

井上間従文 (琉球大学教員・比較文学)・内門博 (西日本新聞文化部記者)・笹岡啓子 (写真家)

森真理子 [進行] (広島・ひろしま女性学研究所)

## ◆香山 リカ

<著書、共著>

中島 義道, 香山リカ:生きてるだけでなぜ悪い? 哲学者と精神科医がすすめる幸せの処方箋, 講談社+α文庫, 全256頁, 2012

香山リカ, 岡崎 伸郎:精神科

医の本音トークがきける本—うつ病の拡散、司法精神医学の課題から震災下のこころのケアまで, 批評社増補版, 全278頁, 2012

香山リカ:言葉のチカラ, 集英社文庫, 全224頁, 2011

内田 樹, 山口 二郎, 香山リカ, 薬師院 仁志:橋下主義(ハシズム)を許すな!, ビジネス社, 全128頁, 2011

香山リカ:「看取り」の作法, 祥伝社, 全208頁, 2011

香山リカ, 橋木俊詔:ほどほどに豊かな社会, ナカニシヤ出版, 全212頁, 2011

香山リカ:気にしない技術, PHP研究所, 全224頁, 2011

香山リカ:そこからすべては始まるのだから 大震災を経て、いま, メディアファクトリー, 全175頁, 2011

香山リカ:弱い自分を好きになる本, 朝日文庫, 全224頁, 2011

香山リカ:なぜあの人、仕事でだけ「うつ」になるのか, PHP文庫, 全197頁, 2011

香山リカ:がんばらなくていい生き方, 海竜社, 全198頁, 2011

香山リカ:3・11後の心を立て直す, ベストセラーズ, 全191頁, 2011

香山リカ:「こころのSOS」をもっと発信しよう, 新講社, 全190頁, 2011

香山リカ:どうして「理想の自分」になれないのか, だいわ文庫, 全200頁, 2011

香山リカ:「うつです」というその前に, PHP研究所, 全142頁, 2011

香山リカ:私はのんびり生きてきた。., 扶桑社, 全191頁, 2011

香山リカ:<不安な時代>の精神病理, 講談社, 全208頁, 2011

香山リカ:世の中の意見が〈私〉と違うとき読む本—自分らしく考える, 幻冬舎, 全212頁, 2011

<学会発表>

「子どもの心を守るために—精神科医の立場から」, 第63回広島医学会総会, 広島医師会館, 2011

『現代ビジネス』シンポジウム 「幸福の経済学—3・11以降の『豊かさ』と『幸せ』を行動経済学から考える」, 行動経済学会, 上智大学, 2011

オンラインゲームにおける共同性をもたらすもの, 日本記号学会第31回大会, 二松學舎大学, 2011

「アンチエイジング神話を超えて—精神科医の立場から考える」, 日本アンチエイジング歯科学会第6回学術大会, ACU(北海道), 2011

## ◆加藤 千恵

加藤千恵 (2011). 帰土の生命説, 陰陽五行のサイエンス 思想編, 京都大学人文科学研究所, pp. 113-124

## ◆佐藤 一彦

埼玉高速鉄道車両内でのトレインTV向けデジタルサイネージ「彩の国・四季めぐりの制作」のプロデュース  
武蔵野銀行・立教大学

InterBEE (2011年・国際放送機器展・幕張メッセ) に出品・展示するための3D展示用コンテンツ

「4K3D規格の直視型液晶モニター2台をハーフミラー方式で3D立体視表示デバイスとして用い、小さな被写体を立体視する、博物館の次世代型映像展示のための実験開発映像」の制作・演出 計測技術研究所(協力) 立教大学心理芸術人文学研究所

「土方巽による舞踏メソッド『舞踏譜』の3D撮影と3次元モーションキャプチャー技術による3次元映像データの採集」の制作協力 慶應義塾大学DMC機構・立教大学心理芸術人文学研究所

「2011年・東京六大学野球・秋のリーグ戦・立教対慶應戦の3D撮影」の制作 慶應義塾大学DMC機構・立教大学心理芸術人文学研究所

「関東学生アメリカンフットボール・一部リーグ戦・立教対拓大戦の3D撮影」の制作 立教大学心理芸術人文学研究所

4Kデジタルシネマ用実験コンテンツ「東京散歩」の制作と演出 立教大学心理芸術人文学研究所

#### ◆中村 秀之

木村建哉・中村秀之・藤井仁子 編『甦る相米慎二』インスクリプト, 2011年9月, 442ページ。[共編著]

中村秀之「光のなかの闇のなかの光」, 第4回恵比寿映像祭『映像のフィジカル』カタログ, 東京都写真美術館, 2012年2月, 30-33ページ。英訳, "Light within the Dark within the Light," 同誌, 34-37ページ。(Website「恵比寿映像祭」の「Yebizo フォーラム」でも公表。http://www.yebizo.com/jp/forum/forum\_index.html) [論文・単著]

中村秀之「原水爆／家長／嫁 —— 『生きものの記録』(1955)における「私」の自壊」, シンポジウム「1950年代日本映画における戦前・戦中との連続性・非連続性」, 2011年7月31日, 国際日本文化研究センター。[口頭発表・単独]

#### ◆鈴木 清重

<論文>

鈴木清重 (2011). 事象の知覚体制化と映像表現の技法 モノ学感覚価値研究, 5, 119-130.

鎌田東二・松井 茂・高嶋由布子・鈴木清重・渡邊淳司 (2011). モノと感覚・価値に関する基盤研究第一回シンポジウム モノ学感覚価値研究, 5, 131-141.

<学会発表>

鈴木清重 アニメーション映画の予告編と本編の間に生じる違和感に関する心理学的研究

A psychological study on the sense of defamiliarization which audience feel with watching an animation movie after watching the trailer.

日本アニメーション学会第13回大会 2011年6月26日 京都精華大学(京都市)

鈴木清重 映像作品の表現にみる時間性と空間性の関わり

日本心理学会第75回大会 WS002 写真・絵画における3次元空間の表現(4) 2011年9月15日 日本大学(東京都世田谷区)

鈴木清重・増田知尋・長田佳久 動画像系列の知覚体制化に関する実験心理学的研究(7)

日本心理学会第75回大会 2AM064 2011年9月16日 日本大学(東京都世田谷区)

鈴木清重・長田佳久 動画像表現のリアリティに関する実験的研究

日本基礎心理学会第30回大会 2L26 2011年12月4日 慶應義塾大学日吉キャンパス

#### ◆大野 久

大野久(2011) アイデンティティと充実感. 榎本 博明(編著) 自己心理学の最先端—自己の構造と機能を科学する. あいり出版. Pp. 23-33.

大野久(2011) 質的研究のさらなる科学性を求めて: 半澤論文へのコメント. 青年心理学研究, 23, 81-84.

大野久(2011) 量的研究と質的研究の長短所と補完的折衷: 体系的折衷調査法の提案. 日本発達心理学会(編) 研究法と尺度(発達科学ハンドブック 第2巻). 新曜社. Pp. 174-185.

大野久(2012) 充実感と生きがい. 榎本博明(編) 青年心理学. おうふう. Pp. 57-67.

#### ◆石山 智弘

2011年 3D立体視研究のため、野球部とアメリカンフットボール部試合を3Dコンテンツにした映像技術の統括

2012年 4K超高精細・実験作品『東京散歩』の4K技術の統括運用

## ◆芳賀 繁

## ＜著書＞

芳賀繁 (2011). 注意・安全とメンタルワークロード, 原田悦子・篠原一光 (編) 注意と安全, 第7章, pp.166-185, 北大路書房 (分担執筆)

## ＜学会誌掲載論文＞

大橋智樹・申紅仙・安達悠子・三沢良・芳賀繁 (2012). 現場を探す・現場に入るー成功体験・失敗体験からそのノウハウを学ぶー (第99回部門別研究会報告・作業部門), 産業・組織心理学研究, Vol.25, No.2, pp.161-167.

## ＜国際学会発表＞

Masuda, T., Haga, S., Azusa Aoyama, A., and Takahashi, H. (2011). The Influence of False and Missing Alarms of Safety System on Drivers' Risk-taking Behavior, Proceedings of the 14th International Conference on Human-Computer Interaction, pp.167-175.

## ＜国内学会発表＞

芳賀繁 (2012). 医療安全のパラダイムシフトー報告する文化から, 公正で柔軟な安全文化へー, 日本循環器学会 (招待講演)

芳賀繁 (2011). ヒューマンエラーは裁けるかー「裁く文化」は安全文化を阻害するー, 第18回日本麻酔・医事法制 (リスクマネジメント) 研究会プログラム・抄録集, p.19. (招待講演)

芳賀繁 (2011). 想定外への対応とレジリエンス工学, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.111(221), pp.9-12. (招待講演)

大谷華・芳賀繁 (2011). 安全行動における職業的自尊心の役割ー計画行動理論を用いた安全行動モデル作成の試み, 日本心理学会第75回大会発表論文集, p.1220.

内藤岳・芳賀繁・吉川肇子 (2011). 食品栄養表示の注視に関する研究ーダイエット関心度や食品選択目的の違いによる比較ー, 日本心理学会第75回大会発表論文集, p.1236.

高橋広樹・芳賀繁 (2011). ワークロードホメオスタシスモデルに基づくリスク補償行動の研究ー自動車ドライバーの夜間視覚支援システムを模擬した実験室実験ー, 人間工学, Vol.47, 特別号(日本人間工学会第52回大会講演集), pp.130-131.

## ＜雑誌等への寄稿＞

芳賀繁 (2012). リスク・マネジメントと事故防止, 交通安全教育, 2012年3月号, pp.6-16.

## ◆都築 誉史

## ＜論文＞

菊地学・都築誉史・千葉元気 (2012). 意思決定スタイルに関する日本語版尺度作成の試みー“決定困難懸念尺度”に関する検討ー 立教大学心理学研究, 54, pp.35-42.

千葉元気・都築誉史 (2012). 多属性-多肢選択意思決定における文脈効果と二重過程理論に関する研究動向ーセルフコントロールと認知資源の相互関係ー 立教大学心理学研究, 54, pp.59-66.

## ＜国際学会報告＞

Tsuzuki, T., Kikuchi, M., & Chiba, I. (2011). The influence of maximizing tendency on regret and counterfactual thinking in repeated versus switching decisions. *Abstract of the 32nd Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, Poster Session #2, No.75. (Seattle)

Chiba, I., Tsuzuki, T., Kikuchi, M., Souma, M., & Hashimoto, Y. (2011). The influence of physiological factors on context effects in multi-attribute decision making. *Abstract of the 32nd Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, Poster Session #2, No.17. (Seattle)

Hashimoto, Y., Tsuzuki, T., Chiba, I., Souma, M., & Kikuchi, M. (2011). Mutual interaction between product categories and three kinds of context effects in multi-attribute decision making. *Abstract of the 32nd Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, Poster Session #1, No.17. (Seattle)

<国内学会報告>

都築誉史・菊地学 (2011). 現状維持・現状変更における後悔の意思決定スタイルによる差異 『日本認知心理学会第9回大会発表論文集』, p. 10. (口頭発表)

都築誉史・菊地学・千葉元気 (2011). 若年層における環境配慮商品の購買意図に影響を及ぼす諸要因に関する検討—自己関与と入手容易性の重要性— 第42回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集 (日本消費者行動研究学会), pp. 69-72. (口頭発表)

都築誉史・菊地学・千葉元気 (2011). インターネット利用と社会的スキルが対人関係と関係妄想的認知に及ぼす影響 『日本社会心理学会第52回大会発表論文集』, p. 69. (口頭発表)

菊地学・都築誉史・千葉元気 (2011). 多属性意思決定における説明責任がある状況での文脈効果の分析 『日本認知心理学会第9回大会発表論文集』, p. 76.

◆大石 幸二

<査読あり論文>

野口和也・大橋智・大石幸二 (2012). 私立幼稚園における発達障害児への「柔軟な指導」を実現するための行動コンサルテーション. *コミュニティ心理学研究*, 15(2), 117-135. (2012年3月発行)

<著書>

大石幸二 (2011). 行動分析学の考え方とその実際. 加藤正仁・宮田広善 (監修). 発達支援学—その理論と実際—. 協同医書出版社. (2011年5月発行)

柘植雅義・篁倫子・大石幸二・松村京子編 (2012). 対人援助専門職のための発達障害者支援ハンドブック. 金剛出版. (2012年2月発行)

<国内学会発表>

大石幸二 (2011). 学校におけるコンサルテーションの理論と実践—行動コンサルテーションの考え方と方法—. 日本行動分析学会第29回大会 (2011年9月; 早稲田大学)

中内麻美・須藤邦彦・大石幸二・大橋智・佐藤亜希・安部博志・野口和也 (2011). つながる支援のつくり方—保育士・教師の相互関係を支えるには—. 日本特殊教育学会第49回大会 (2011年9月; 弘前大学)

佐々木仁子・豊田英敏・一色久恵・中島和子・大石幸二 (2011). 特別支援教育の指導法を生かした言語活動の充実を図る授業創り—SPELLの視点にたった、特別でない特別支援教育の実践—. 日本LD学会第20回大会 (2011年9月; 跡見学園女子大学)

<寄稿論文>

大石幸二 (2011). クラスで気になる子の支援 (ズバツと解決ファイル・NEXT LEVEL) —もしも学級経営が難しいクラスの担任になったら?—. *児童心理*, 65(11), 1012-1018. 金子書房. (2011年8月発行)

<マスコミ報道>

大石幸二 (2012). 地域の中でつながりを紡ぐには (基調講演/パネルディスカッション). 埼玉新聞社 (2012年1月; 西武文理大学)

◆小口 孝司

<査読あり論文>

Ohshima, R., Hirokawa, K., & Oguchi, T. (2011). Effects of specific activities and achievement motivation of tourists on stress reduction. *Blurring the Boundaries: Forging Cooperation Towards Sustainability in Regional Tourism. (Proceedings of 17th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference)*, 130-137. (Best Paper Award 受賞)

Takeda, H., Motoki, K., & Oguchi, T. (2011). Effects of an excursion on mental health. *The 2011 TOSOK*

## International Tourism Conference Proceedings.

<査読なし論文>

小口孝司・竹田葉留美・落合勉 (2012). 高齢者の自伝的記憶の機能とメンタルヘルスとの関連について, HIRC (東洋大学ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター) 研究年報, 9, 25-30.

<学会発表>

大嶋玲未・小口孝司 (2011). セルフ・モニタリングと誠実性がサービス業従事者の職務要因に及ぼす影響, 第27回産業・組織心理学会大会発表論文集 (中村学園大学)

廣川佳子・小口孝司 (2011). 承認欲求が評価的言動に対する反応と対処方略に及ぼす影響, 第27回産業・組織心理学会大会発表論文集 (中村学園大学)

竹田葉留美・落合勉・小口孝司 (2011). 自伝的記憶の機能についての検討 日本心理学会第75回大会発表論文集 (日本大学文理学部)

## ◆日高 聡太

<査読あり論文>

Hidaka, S., Teramoto, W., & Nagai, M. (2012). Sound can enhance the suppression of visual target detection in apparent motion trajectory. *Vision Research*, **59**, 25-33.

Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. (2012). Sounds can alter the perceived direction of a moving visual object. *Journal of Vision*, **12(3):11**, 1-12.

Hidaka, S., Nagai, M., Sekuler, A.B., Bennett, P.J., & Gyoba, J. (2011). Inhibition of target detection in apparent motion trajectory. *Journal of Vision*, **11(10):2**, 1-12.

<国際学会発表>

Hidaka, S., Teramoto, W., Sugita, Y., Manaka, Y., Sakamoto, S., and Suzuki, Y. Direct contribution of auditory motion information to sound-induced visual motion perception. International Multisensory Forum 2011 (October 19, 2011, Fukuoka) 【口頭発表】

Teramoto, W., Kobayashi, M., Hidaka, S., and Sugita, Y. Crossmodal contingent aftereffect. International Multisensory Forum 2011 (October 18, 2011, Fukuoka) 【口頭発表】

Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., and Suzuki, Y. The effects of head movement and accurate proprioceptive feedback in training of sound localization. International Multisensory Forum 2011 (October 18, 2011, Fukuoka)

Teramoto, W., Kobayashi, M., Hidaka, S., and Sugita, Y. Visual motion contingent auditory aftereffects. European Conference of Visual Perception 2011 (August 30, 2011, Toulouse, France)

Kobayashi, M., Teramoto, W., Hidaka, S., and Sugita, Y. Implicit association between sound frequency and visual motion. The 15th annual meeting of the Association for the Scientific Study of Consciousness (June 11, 2011, Kyoto).

<国内学会発表>

日高聡太, 永井聖剛, Allison B. Sekuler, Patrick J. Bennett, 行場次朗. 仮現運動軌道上で生じる知覚的抑制に物体特徴情報が及ぼす影響. 日本視覚学会2012年冬季大会 (2012年1月20日, 工学院大学) 【口頭発表】

日高聡太, 寺本渉, 永井聖剛. 聴覚刺激が仮現運動軌道上で生じる知覚的抑制に及ぼす影響. 日本基礎心理学会第30回大会 (2011年12月3日, 慶應義塾大学). 【発表賞受賞】

高橋純一, 日高聡太, 寺本渉, 行場次朗. 視覚パターンの情報負荷量が視覚表象の符号化および記憶保持過程に及ぼす非対称的な影響—反復の見落とし現象を指標として—. 日本基礎心理学会第30回大会 (2011年12月4日, 慶應義塾大学).

日高聡太, 永井聖剛, Allison B. Sekuler, Patrick J. Bennett, 行場次朗. 仮現運動軌道上における知覚的気づきの抑制. 日本心理学会第74回大会 (2011年9月16日, 日本大学).